

「学者たちはその星を見て喜びにあふれた」(マタイによる福音書 2 章 10 節)

### 「イエス様と出会う喜びの日」

この聖書箇所は、クリスマスの出来事の一部です。聖書では羊飼いと博士(学者)たちが、イエス様が眠っておられる馬小屋(もしくは家)にやってきます。羊飼いたちは天使からイエス様が馬小屋におられることを知らされるのですが、博士たちはそうではありませんでした。彼らはそもそもユダヤ人ではなく、ユダヤのずーっと東にあるバビロニア人だったのです。彼らは占星術の学者で、毎晩星の動きを観察していました。すると、自分たちの国から見て西の空にひときわ大きく輝く星を見つけ、新しい王様、救い主の誕生を知らされます。博士たちはまだ見ぬイエス様とお会いすることを願い、献げる宝をもって故郷を旅立ちます。しかし、それには大変な時間がかかりました。距離が遠く、砂漠をはさむことももちろんそうですが、彼らはイエス様がどこにおられるのかを詳しく知ることはできないでいたからです。彼らを導くようにゆっくりと進む星を追いかけ続け、聖書や色々な人の話を聞きながら、何とかユダヤの町にまではたどり着くことができました。しかし、この町のどこにいらっしゃるかはまだ分かりません。ですから彼らは最初、手当たり次第に王宮や有名な病院を巡り歩いたのです。新しい王様なら、そういう素晴らしい場所におられると思ったからです。

しかし、どこを探してもイエス様は見つかりません。自分たちの長い旅は無駄だったのか。自分たちは外国の民だから、神様に嫌われていて、救い主にお会いすることができないのだろうか。クリスマスの夜、博士たちはそのような大きな悲しみを感じたことでしょう。しかし、神様は彼らをそのような悲しみの中から救い出してくださいました。ここまで導いてくれたあの大きく明るい星がさらに動き出し、イエス様がおられる場所の上でこれ以上ないほどにまぶしく輝いたのです。そうです。この星は神様が博士たちを導くために遣わされた特別な星でした。

「ここに、あなたの救い主がいらっしゃるよ！ここで、あなたに会うことを楽しみに待っておられるよ！」星の光がそのように語っているように見えました。博士たちは長い旅の中で心も体も疲れ果てていたでしょう。一度は救い主に会うことはできないと絶望したことでしょう。だからこそ、星の輝きを見た時に、博士たちの心には喜びがあふれたのです。神様は私たちのことを招いてくださっている。私たちが御心の内に置いてくださっている。遠い国の私たちを仲間はずれになんかされず、愛して守ってください。馬小屋の扉を開け、そこに赤ちゃんイエス様の姿を見ることができたのは、彼らにとってどれほど嬉しいことだったのでしょうか。どれほど心を慰められたのでしょうか。

クリスマスは救い主イエス様はあなたのもとに来てくださったことをお祝いする日。あなたにとって嬉しい日。そしてイエス様にとっても嬉しい日なのです。自分はクリスチャンじゃないから、子どもだから、大人だから関係ない？そんなことはありません。イエス様はすべての人のために、あなた一人のために来てくださったのですから。神様は今も不思議にあなたをイエス様のもとに導いてくださっていますよ。この方を救い主と信じるのに何の妨げもないのです。クリスマスの本当の喜びがあなたの心にもあふれますように！

チャブレン 吉川光太郎





保育理念	受ける愛 与える愛
	ー愛されていることを知り・愛する者となるためにー

「 喜びにあふれて 」

神様が下さる沢山の恵みを一つひとつ数えた秋から、神さまの愛を知り、イエス様のご降誕をお祝いする12月になりました。幼稚園では、クリスマスへ向かっての準備の時を過ごしています。各クラスでは、ロウソクに灯をともし「一番初めのクリスマス」のお話を担任より聞き、クリスマスは「イエス様の誕生を祝う日」と知りました。それと同時に「献金」の話も聞きました。私たちは毎日当たり前のように、食事をし、住む家があり、着る着物があり、幼稚園に通っています。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の中にあっても、世界の学校の43%には石鹸と水による基本的な手洗いをする設備がないことを知りました。予防接種が受けられない子どもたち、避難民キャンプで暮らす子どもたち、お腹をすかせて栄養失調の子どもたち、学校に行きたくても行けない子どもたちがいることを知りました。そこで、私たちのできることを、お家の手伝いをして献金することにしました。神様は私たちのために、大切な独り子イエス様をプレゼントとして下さいました。その愛に応え「他者のために祈る、他者のとこを想像する」そのようなアドベントの時としてお家の皆様にも、ご協力をお願いし、共に考えていただくと嬉しく思います。

さて、月刊誌「キリスト教保育」12月号に次のような文章がありました。ーユニセフの「レポートカード16」において、先進国の子どもの幸福度ランキングが発表され、日本の「子どもの幸福度」の総合順位は38ヶ国中の20位。身体的健康〔子どもの死亡率、過体重、肥満の子どもの割合等〕精神的幸福度〔生活満足度が高い子どもの割合、自殺率など〕スキル〔読解力、数学分野の学力、社会的スキル等〕の3つの分野を総合したもの。日本の子どもは、身体的健康は1位。しかし、精神的幸福度は37位。最も自信のない子どもたちと言う結果だった。ーとの報告でした。そこで、乳幼児期から「喜びにあふれて」生活する環境が保証され、「面白い」「楽しい」「嬉しい」「どうして」「悔しい」「可哀そう」「悲しい」などの感情を動かし、夢中になって生きる体験の積み重ねが、大切と思わされています。このことを通して、ありのままの自分を受け入れられることを願います。子どもたちには、クリスマスに演じられる聖誕劇を通して、救い主イエス様の愛や平和を共に感じ喜び、感謝してほしいと願っています。クリスマスの喜びを分かち合うことが出来るようにと祈ります。